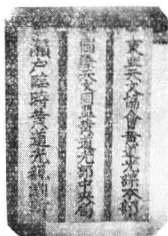


Title	瀬戸黄道光観測所だより(2月)
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1937), 17(192): 227-228
Issue Date	1937-03-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167447
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

瀬戸黄道光観測所だより (2月)



◇2月11日紀元節の午後、山本先生より激励の御辭を
ゐたゞき、御夫人よりの門出の赤飯に感謝と感激にむせ
びながら京都發西下する。

神戸にてクロノメータを受取り、それを護送して22
時21分福山着。大塚瀬戸村長及び野田正光寺住職に迎へ
られて、福山宿り。

◇翌12日福山の城もぼんやり氷雨にかすんだ午後、いよいよ瀬戸村入り、
村有志諸氏の歓迎裡に下宿先竹中順吉氏方へ落つく。

◇瀬戸の村は山である。その小松林の山裾の所々に三々五々人家がある。
そしてその家々の白壁が、村の至る所に散在する灌漑湖の水面に朝な夕な映
じていともものどかである。

◇2月22日山本先生の御來村。小雨のそば降る中に御熱心に御檢分になり、
假観測所の建築位置等
最後の御決定をなさ
れる。

◇下旬梅を見るには
もうおそく、柳の芽に
春が來て、鶯の聲が小
松林にこぼれると、日
毎に陽射しが柔くな
る。その頃熱心なる村
民諸氏の努力奉仕によ
つて假観測所の整地が
終り、牛に引かせての
石材運搬が始まり、用
材の切り出しが始ま
る。正に素晴らしい活

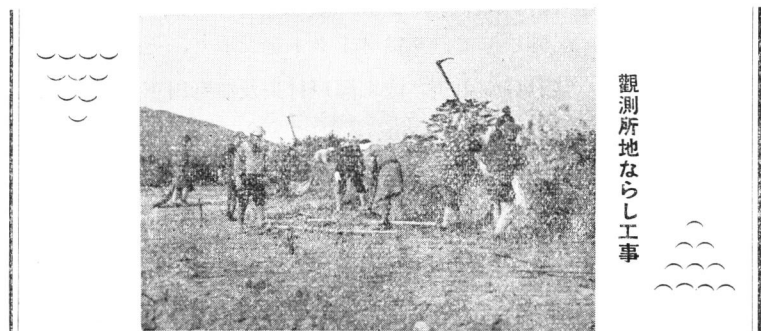


観測所の敷地下檢分

右4人目より山本教授、大塚瀬戸村長、本田氏、荒木氏

氣である。

◇到着以來荒木課長の御精勵ぶりは實に涙ぐましい限りである。一日半日の休養もなく、観測所敷地整地の監督、用材切り出しの監督、村當局との折衝、協會黄道光課員との連絡等寸暇もなく御精勵である。



◇しかし又和やかなる反面、荒木課長の子供好きは知る人ぞ知る。下宿先竹中氏方に今年3歳の女の子がある。その女の子が紅葉の手をひろげ、可愛い聲をあげて、「チエン チエイ チエンチエイ(先生、先生)」となつくさまは、みる者をして、思はず微笑ますにはゐられない。

◇観測所の位置は瀬戸村の「星見山」の一角で見晴らしの良い所である。「星見山」とは之は新聞のつけて呉れた名である。いゝ名であると村の人はよろこんでゐる。そして今その山の一角が150坪ばかり村人の美しい力によつてきれいに開かれて假観測所が建てられるのである。(ミヌ生)

× × × × ×

創立といふことはうるさいものですな。いくらでも雑務があつて、それがなかなか片附かないのです。これで假観測所が出来れば一先づおちつけませう。先日、山本教授御來訪の節、花山の創立當時のお話をききましたが、それをおもふと、私達はめぐまれてゐます。村役場の皆さま、竹中さんの御一家の眞に行届いたお世話のおかげで、不自由なく暮してゐます。観測所は假でも、観測ははじめてから本式。すばらしいことをやろうと大きいのぞみを持つてゐます。(荒木健兒記す)